

<p>区 区 委員長</p>	<p>[開会] 4月の人事異動・組織改正により、一部所管や担当者が変わった。基本構想は政策総務企画部政策企画部にて策定作業を進める。 それでは議題に進む。進行は委員長に委任する。 第1回同様、2040年の望ましい姿と望ましい姿を達成するための取組の方向性を議論する。なお、本日は教育分野があるため、小学校・中学校の校長会長にも同席いただいている。 次第2「本日の検討内容」について事務局より説明いただきたい。</p>
<p>区</p>	<p>資料1「本日の検討内容」について説明する。 本日は「子育て」「教育」「若者」「生涯学習・スポーツ」の政策分野について、2040年の望ましい姿と方向性、基本目標に盛り込むべきキーワードについて、検討いただく。 小委員会の検討事項について、第1回の小委員会と同様、区民参画結果や基本構想策定支援シートを参考に、各政策における「2040年の望ましい姿」「望ましい姿を達成するための方向性」について検討いただく。 小委員会から第3回審議会にかけての流れについて、先日の第1回小委員会と本日の第2回小委員会でいただいたご意見の取りまとめを行い、委員長と内容を調整する。その後5月25日の第3回審議会において、小委員会での議論の結果を報告いただく。 本日の会議の流れとワークシートについて説明する。前回からワークシートの様式を変更している。各政策分野における「2040年の望ましい姿」「望ましい姿を達成するための取組」「基本目標に盛り込むべきキーワード」について意見をいただく。皆さまのご発言の内容を「2040年の望ましい姿」や「基本目標に盛り込むべきキーワード」等の欄に事務局がリアルタイムで記入する。検討の流れについては、まず、基本構想策定支援シートの概略を事務局から説明する。その後、政策ごとの2040年の望ましい姿、望ましい姿を達成するための取組、基本目標に盛り込むべきキーワードについて、意見をいただきたい。なお、本日の小委員会終了後、追加で意見がある場合は、資料3「追加意見シート」を4月27日(月)までに事務局へ提出いただきたい。 資料1「本日の検討内容」についてのご説明は以上である。</p>
<p>委員長</p>	<p>事務局の説明の通り、第1回小委員会同様、各分野について、2040年の望ましい姿と望ましい姿を達成するための取組の方向性、基本目標に盛り込むべきキーワードについてご意見をいただきたい。 進め方についても、前回同様事務局から策定支援シートについて説</p>

	<p>明した後、委員長から各委員の専門性を考慮して2名程度指名し、意見をいただく。それを基に皆様で議論していきたい。本日は2時間で4つの議題を扱う。委員の議論時間を十分確保するためお話しいただくため、事務局には極力端的に説明いただきたい。</p> <p>次第3「政策分野別の基本構想策定支援シート」のうち(1)「子育て」について、事務局から説明いただきたい。</p>
事務局	<p>資料2「基本構想策定支援シートの『子育て』」について説明する。</p> <p>1の子育て分野における主な成果と実績では、平成29年度から令和6年度時点の成果と実績を整理している。詳細は割愛するが、区として、学校の部活動における外部指導員の配置増、子育て講習サロンの増設、子どもの居場所づくり及び子ども食堂の補助件数の増、医療的ケア児への居宅訪問保育事業や保育園での受け入れ等の成果を整理している。</p> <p>2の区を取り巻く社会動向について、全国規模で少子化が進む中で、核家族化や共働き世帯の増加が進行し、仕事と育児の両立支援がより重要な課題となっていること、個人や家族が抱える問題が複雑化・複合化しており、ヤングケアラー等の新たな課題が顕在化している。国及び東京都の政策動向は記載のとおり。</p> <p>3区の現状について、「育児に不安をもつ親の割合」は年度ごとに変動していますが、6年度は27.1%となっている。「区民の関心があり、解消に向けて取り組むべきと考える人権問題」という質問について、「子どもに対するいじめ・虐待」と回答した人が63.7%となっており、全体で最も高い結果となっている。また発達障害の理解が進んだことや、保護者の就労希望の増加等により、療育等の需要が増加しており、就労相談件数や特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増加しているほか、区立学校等への就労を希望する医療的ケア児が増加している。</p> <p>これらを踏まえた4の課題は、育児不安のある区民が多いことから、関係者が一体となり、心理的・経済的負担軽減が課題であると認識している。また、児童虐待やヤングケアラー、子どもの貧困等の家庭事情により支援が必要な子どもとその家庭に対して、子ども家庭総合センターを中心とした、地域一体と包括的支援を可能とする体制が求められるほか、障がい児や医療的ケア児等、あらゆる困難を抱える子どもたちを支える仕組みづくりが重要であると考えている。</p> <p>基本構想策定支援シート【子育て】の説明は以上である。</p>
委員長	<p>あらかじめ指定した委員から発言いただきたい。</p>

<p>委員</p>	<p>2040年の望ましい姿は、「こどもたちの幸せの芽が育つ社会 心弾む子育て 協働で感動できる社会」と考えている。</p> <p>細分化すると、子どもたちが興味関心を持ち、「考動」(考えて動く) できるような「元気の芽が育つ」環境、そして、興味関心から夢中になって「行動」できるような「勇気の芽が育つ」環境があり、そのような環境をつくるための過程を共に考え、その結果「幸動」(幸せが動く) につなげられるのではないかという将来像である。</p> <p>望ましい姿の実現に向けた取組を挙げる。</p> <p>まず、親子で運動(運を動かす/体を動かす)することが重要と考える。雨の日に、普段自転車で行けるような距離のスーパーへ買い物に行く際、親子で手を繋いで買い物に行ったり、桜の時期に一緒に散歩をしたりといった体験を通して、興味関心も生起されるだろう。</p> <p>また、荒川区はイベントが充実しており、参加を楽しみにしているという声も多いため、各種イベントも継続的に実施できると望ましい。荒川区の伝統芸能に触れることで、数字だけでは測れないような、感覚的で、豊かな知識を獲得できるのではないかと考える。</p> <p>育児解消については、例えば子育てをする中で、食事の支度に悩むシーンもあると考える。そのような方に対し、ふれあい館にて、地域の子育て経験者が、ちょっとした一品料理のアドバイスをしてくれるような簡単な料理教室実施できれば、不安解消の一助となるのではないかと。加えて、やらなくてはいけないことに追われる現役の子育て家庭に対し、子育て経験者が「そのようなときはこうしておけば大丈夫ですよ」と少し肩の力を抜けるような声掛けをできるような「子育てきっかけ講座」といった取組を行うことも一案だろう。</p> <p>ふれあい館の活用方法を見直すことも重要と考える。先日、ふれあい館館長と、品川区の学校が保育園の登園時間に対して1時間早くから学校を開放しているというニュースについて話していた際、朝子どもが小学校に行くまでの間、ふれあい館を開放し、閉館時間を一時間繰り上げることも一案かと話していた。</p> <p>以上のような取組を区全体で進めることで子育ての課題を良い方向に進めるきっかけになるだろう。「障がい者」「健常者」というようなカテゴリにとらわれず、一人ひとりに必要な後押しやサポートの在り方を理解し、生活する中で地域の輪が強められると望ましい。</p> <p>委員</p> <p>望ましい姿を5点述べる。</p> <p>第一に、「こどもの意見を最大限に尊重する」ということが重要と考える。</p>
-----------	---

委員	<p>第二に、「こどもに優しい街」あるいは「街中に子どもの居場所がたくさんある地域」を挙げる。</p> <p>第三に、「働きながら子育てできるまち」であることも重要だろう。区内で働く環境があれば、子どもに何らかのトラブルがあった場合にも、すぐに子どものもとへ行ける。今後育児と労働の両立は避けて通れない課題となることが推測され、子育ては労働とセットで検討する必要があると史料する。</p> <p>第四に、今後、さらに社会の環境変化が激しくなることが予想されるため、「データと現場の声をリアルタイムで把握し、分析できるまち」であると望ましいと考える。</p> <p>最後に、ルールをアップデートしていく姿勢として、「柔軟で機動力のある制度設計」が重要と考える。</p> <p>以下、望ましい姿の実現に向けた取組について、5点挙げる。</p> <p>第一に、困難を抱えている子どもへの伴走型支援である。行政として、苦しい状況にある子どもへの支援は最優先事項と考える。</p> <p>第二に、子育て家庭に優しい住まいと就労機関の提供である。住む場所は大変重要であるが、都内は家賃相場が高く、子育てしつつ良い住環境を整えることは難しいため、子育てしやすい住環境の整備が重要と考える。</p> <p>第三に、多様な人材による地域包括支援体制の構築を挙げる。専門家や現場で活動している方を巻き込んだ政策づくりができると望ましい。縦の行政、横の民間、斜めの市民という三者を多層的に捉え、多重的に支援する必要があるだろう。</p> <p>第四に、常設のプレイパークや清潔感のある公園など、子どもたちが安心して遊びに没頭できる施設の整備ができると望ましい。なにかし堂に来る子から、「トイレが汚く、嫌だ」という声を受けたことがある。安心して思い切りボール遊びができるような場があると良いだろう。</p> <p>最後に、児童福祉に関わる専門家の待遇改善が重要だろう。特に子ども家庭総合センター、保健所、スクールソーシャルワーカー等は重要な仕事であるにも関わらず、生活水準の低さや雇用形態の不安定さから従事希望者が少ないという現状がある。従事希望者を増やすための取組ができると望ましい。</p> <p>基本目標に盛り込むべきキーワードには、「こどもの権利」「ハウジングファースト」「プレイパーク」を挙げる。</p> <p>策定支援シートでは、「この地域で子育てしたいと思う親の割合」</p>
----	---

	<p>が大幅に減少している。一方、子育て交流サロン施設数の増加をはじめとし、個別の指標値は改善しているように見受けられる。このことから、行政としては力を尽くしているにも関わらず、一般市民に理解されていない状況にあるのではないかと思料する。</p> <p>困りごとや要望が生じた際、どこへ相談にいけばいいのか、どこに行くか不安が解消され、子育てが楽しくなるのかわからないという意見がある。そのような層に向け、行政が「このような希望がある人はここに行くといい」、「このような悩みは 相談センターで相談できる」など、取組をより見えやすくするような広報をすることで、「この地域で子育てをしたいと思う親の割合」の改善が期待できると考える。</p> <p>子育て施策は一定数行われており、一定の予算もかけられているものと思料する。</p> <p>以前、絵本ライブを行っていた際、笑っていない子どもがいて、その裏に笑っていない母親がいて、その後ろに父親がいないということに気がついた。それを機に、男性の子育てを支援する NPO ファザーリング・ジャパンの活動を開始した。子どもは本来、自然と笑う。笑わない背景には、親の苦しみがあると考えられる。苦しみを解決するために、ただ子育て施策を充実させても、親の心が育っていなければ、依存するだけとなり、親から子へ良い影響が与えられない可能性がある。そのため、親の心に寄り添うような取組を充実させることが有効と考える。例えば、当初 PTA はやりたくないと言っていた人でも、実際にやると、「やってよかった」と言う方が圧倒的に多い。これは、学校で先生と交流できることや、子どもたちの日常の様子が見られるということもあるが、一番は「ママ友」「パパ友」ができるためであると考えられる。既存の取組へのアクセス性を高められるよう、積極的に情報を届けられると望ましい。</p> <p>子育ては大変だが、「荒川区に住むと自分自身も明るくなれる」というメッセージをいろいろな講座等に入れこむことで、意識を高められるような取組をすることも一案だろう。</p>
委員	<p>子どもが笑顔でいる背景には、支えている人がいる。そして支えている人がさらに支えられる環境にすることで、豊かになると考える。</p> <p>親が責任をもって自分の子を育てるという一対一で完結するような構造だと苦しくなるため、荒川区に住むことで地域全体に支えられている感覚になれるまちだと望ましい。自分の子ども、自分の親ばかりではなく支え合いができると良いのではないかと。</p>
委員長	<p>近年の研究結果から感じられる課題点として、子どもの睡眠不足が</p>

<p>委員長</p>	<p>深刻な状況であることを挙げる。朝練や早朝の呼び出し等は予後も悪いという研究結果等から、学校の始業について、9時、10時頃にした方が良いのではないかという意見も出ている。一方、学校を7時に開け、親の都合で子どもが朝早く登校せざるを得ないケースもある。背景には親も働かなくてはならないという事情がある。行政としてはそのような事情と、データの折り合いをつけ、キーワードや施策を検討されると望ましい。タンパク質不足で、日本人の身長が低くなっているといったデータ等もある。</p> <p>子どもにとって本当に良い未来をこの場で議論したいが、時間が限られているため、追加意見シートの提出に期待する。</p> <p>次第3「政策分野別の望ましい姿と方向性の検討」のうち(2)「教育」について、事務局から説明いただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料2「基本構想策定支援シートの『教育』」について説明する。</p> <p>1の教育分野における主な成果と実績についても詳細は割愛するが、学校図書館の授業での活用回数の増、不登校からの学校復帰率の増加、学習習慣が身についている小中学生の割合の増といった良い学校を作っていると感じる保護者の割合」等の成果を整理している。</p> <p>2の区を取り巻く社会動向について、コロナ禍を通じてデジタル機器やオンライン情報へのアクセスが一層普及する一方、機会や情報格差が課題となっているほか、生成AIなどのデジタル技術の発展やグローバル化といった社会的変化が人間の予測を超えて進展している。また、発達の段階や特性に応じた指導が重視されていること、不登校児童生徒の増加やいじめの認知件数の増加をはじめ、学校が対応する必要のある課題が複雑化・困難化している状況である。国および東京都の政策動向は記載のとおりです。</p> <p>3の「区の現状」について、「自然と触れ合える場所や体験」に対し、子ども自身・保護者ともに約50%が希望している状況である。また、授業でタブレットPCを活用し指導する教員の割合は、82.4%となっている。この他、就学相談件数の増加および教育的支援を必要とする児童生徒の増加、区立学校等への就学を希望する医療的ケア児が増加傾向にある状況である。</p> <p>4の以上を踏まえた課題は、探究的な学びなど、教育の質の向上に引き続き取り組む必要があるほか、それを支えるための学校の働き方改革や教育DXを進めていく必要があると認識している。また、不登校やいじめへの対応について、学校復帰を前提としない多様な学習・活動機会の確保について検討が必要と認識している。そのほか、学校</p>

	<p>老朽化への対応、特別支援学級をはじめとするインクルーシブな教育への更新、地域連携による教育の質の向上等に取り組んでいく必要がある。</p> <p>基本構想策定支援シート【教育】に関する説明は以上である。</p>
<p>委員長 委員</p>	<p>あらかじめ指定した委員から発言いただきたい。</p> <p>策定支援シートを見て、「多様性」や「こども一人ひとりに合わせる」というニュアンスの言葉が多いと感じた（個別最適な学び、多様な学習・活動機会の確保、インクルーシブな教育／等）。私自身が幼少期に受けた一律教育の世の中ではなくなっていることを感じた。</p> <p>キーワードは「多様性」、2040年の望ましい姿としては「一人ひとりの子どもの個性や多様性を認め、個人に寄り添った教育をする」というような方向性と考える。</p> <p>基本目標において掲げられていた「多様な価値観・自分らしさを認め合い、一人ひとりが輝くまち」は、教育分野にも通じる理念であろう。</p> <p>望ましい姿を達成するための取組として、教員不足への対応が求められると考える。学校における課題が複雑化・多様化し、教員に求められることが増えているにも関わらず、現状、教員のなり手が不足している。教育を改善していく以前に、教員を十分数確保し、学校現場を持続可能な状態にすることすら危うい現状であることを受け止める必要がある。</p> <p>全体を通じて、基本構想でどこまで実効性を意識し、メリハリをつけるべきかを考えた。学力が高く、学校における問題は解決されており、不登校の児童もいないという状態が理想ではあるものの、実際の学校現場を見るとそれらすべてを叶えることは現実的でないだろう。基本構想は、総花的かつ、夢を盛り込むものであるが、どこかでメリハリをつける必要があるのではないかと感じたため、この点については皆さんとも議論したい。</p>
<p>委員</p>	<p>私はPTA会長かつ心理職として学校や保育園等を巡回している。データを見ると、児童生徒の先生方への信頼の厚さが荒川区の強みとなっていることがわかる。</p> <p>具体的な取組を紹介したい。荒川区立第一中学校の小柴校長は、事前に起こり得る問題を予測し、早めに学校便りやスクリレ等でアナウンスしてくれている。各学校でインフルエンザに罹患した児童が出始めたタイミングで、受験を控える3年生のためにも、街中の出歩きや体調不良時の無理な登校を控えてほしいということアナウンスし</p>

ていた。また、保護者に対し、偏差値や親の思いで志望校を決めず、子ども自身の様子を見て、話を聞いてあげてほしいということもおっしゃっていた。保護者にとっては耳の痛いメッセージであったため、一部からは反感を買っていたかもしれないが、校長の発言に感銘を受けたという声も多かった。学校を支える PTA やスクールカウンセラーの役目として、保護者のポジティブな声を学校に密に届けるようにしていた。

校長は非常に重要で、管理職のマネジメントや教育を通じて、学校全体の雰囲気左右する。受験期を迎える子どもにアンケートをとった事例がある。アンケートでは、序盤で、ポジティブで子どもたちに安心感を抱かせるような設問について尋ねたのち、冬期休暇中に気になったこと不安などの安全に関する設問を訪ねるよう、構成が工夫されていた。そしてその結果を学年便りで共有し、学校が子どもたちの不安に対し真剣に受け止めている様子に感銘を受けた。

区においても、こころの健康観察アプリが導入され、ある子どもが大変な状況にあることを、教員が早期に察知できたという事例があった。

上述の事例をはじめとし、荒川区にはすばらしい資質があるが、それが十分広がっていない。それを踏まえ、目指す姿として「ありがとうという言葉が飛び交う町」、「ありがとうで心を温め合うような荒川区」を挙げたい。キーワードは「ありがとう」が良いか考える。

取組としては、荒川第一中学校で行われた、学校の先生に日頃の感謝を伝えるハートフルメッセージの取組から着想を得て、感謝の言葉を伝えるシステムづくりが重要と考える。ハートフルメッセージを送られた教員は「涙がでるほどうれしい」と言っていた。教員が大変な状況であることは承知しているが、大変さばかりに焦点を当てるのではなく、働いてくれている人に光を当てられると望ましいと考える。

具体的には、「荒川ありがとうプロジェクト」というような短期イベントを行い、区職員や学校職員等に感謝を伝える機会を設け、それを区報や区報ジュニア版等で広報し、広く実施できると望ましい。

区職員や教員に働きたいまちだ感じてもらえることも重要だろう。「荒川ありがとうウィーク」のような感謝を伝える取組もよいが、負担を減らすことも必要になる。職業性ストレスの理論として DCS モデルというものがある。Demand(要求)、Control(自由度)、Support(サポート)の頭文字をとっており、要求度が高く、自由度が低く、サポートが低いとストレスが高くなるという理論である。これがすべて逆

委員	<p>の状態になるとストレス軽減に寄与すると考えられる。そのために、荒川区において本年度より始まるコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度のこと。以下学運協と表記。）を軌道に乗せることが重要だろう。</p> <p>残念ながら、学校運営協議会制度について、地域の人からは学校評議員制度とあまり変わらず、多少の謝金が出る程度と言う声もあるが、実際にはできることが大きく異なる。例えば、私は学運協の方から、地域の中で特別支援教育について教えてほしいという依頼を受けたことがある。地域の方が学びたいと言ってくれたことをきっかけに勉強会を実施する運びとなった。また、学運協は、安全な人に目印（刺繍）を渡し、その目印を子どもたちに見せ、目印がついている人に対しては挨拶をしても安心だということを伝える取組も行っている。学校の負担の軽減に学運協が大きく貢献している。学校にて、警察沙汰の問題が起きた際にも、緊急保護者会の場に第三者として参加し、学校の立場からは言いにくいことを伝え、保護者の気持ちが静まったという事例もある。学運協を形骸化させず、実効性のある制度にしていくことは教員の負担軽減の一助となろう。杉並区は積極的に取り組みを進めているという話を聞くため、参考になるか。</p> <p>不登校の数、学力問題、就学相談件数およびいじめの報告件数が増えている。委員もメリハリが必要かとお話されていたが、これらの課題の一つひとつはあくまで枝葉であると捉えている。根本解決のためには、学校教育がより寛容になる必要があると考える。</p> <p>人は、物事をカテゴライズし、カテゴリごとに分離したくなる傾向がある。その結果、分離先それぞれにお金をかける必要が生じる。よって、学びたい荒川モデルを構築する上で、「普通教室で多様な学びが叶う」という姿が望ましいと考える。つまり、特別支援教室が通常の学級で行えることを増やし、一次的援助サービス（安全安心な教室）を叶えていくという考え方である。「学びたい」という希望を叶えるためには、特色のある学校づくりが重要で、中央区の特認校制度も参考になろう。</p> <p>2040年望ましい姿として、「人権と、人権を土台とした多様な学び」を挙げる。土台として人権があつてこそ、多様な学びが実現できると考える。</p> <p>望ましい姿を達成するための取組の方向性としては、策定調書に記載されていたSTEAM教育やアントレプレナー教育というキーワードから、勉強のおもしろさを体感できる教育の考え方が良いと感じた。知</p>
----	---

	<p>識の詰め込みではなく、知識を組み合わせ、どのように考え、どのように行動するかが学びのおもしろさにつながっていくだろう。学びをより効果的なものにするためには、教職員が本来の職務に専念できるような環境を整えることも必要だろう。</p> <p>基本目標に盛り込むべきキーワードとしては「主役」を挙げる。子どもたち全員が学校の主役であってほしいという想いから、「誰もが主役になれるまち、荒川」という将来像を提案する。どんな人でも主役になることができるため、一緒に学んでいこうという方向性の施策を検討することが望ましい。</p> <p>いじめの認知件数が増加しているという指標については、むしろ良い傾向と考える。教職員がいじめを認知するために積極的に行動し、問題が顕在化した結果と捉えている。SNS いじめなど、見えづらい形のいじめも増えている中、実態把握のために尽力されている教職員へ、敬意を示したい。</p> <p>委員の意見の追加として、特定の条件によらず、希望するすべての方が個別に学ぶことができる、通級制度の拡大ができると望ましい。</p> <p>校則や服装を生徒主体で考えていくことも重要と考える。「なぜ制服を着なくてはいけないのかわからない」といった発言は、制服の意義を考える場がなかったために出たものと推測される。校則等の意味を考え、対話する場を設けられると望ましい。</p> <p>学運協には期待している。全く関係のない人がいきなり学校と連携することは難しいが、学運協としての公式なつながりがあれば、一外部の人間として学校のことを知り、ゆるやかに応援できる関わりを持てるだろう。キーワードとしては、いつか荒川区においても実現してほしいという想いを込めて、「学びの多様化学校」を挙げる。</p>
委員	<p>委員長の</p> <p>教職員が負担の重さにいつまで耐えられるのかという懸念については、おっしゃる通りと考える。先生がアドバイスをくれると感じている児童生徒の割合が8割を超えているというのは大変良い結果であるが、先生方にも家庭がある。仕事後に誰かに相談をすると、窓口の対応時間外となってしまう点は改善できると良い。現在、学校では校長先生であっても事務をやるほど業務量に対して人材が不足している。このような状況を踏まえ、福祉人材に加え援助職や教職員等に対する何らかの良い制度が整備できると望ましい。担任を複数人で行うことや、夜に相談できる窓口の設置等も一案か。</p> <p>SNS いじめについても、校長先生の影響力は大きい。疑いであっても、SNS いじめと思われるものをみかけたらすべて画像を提出するこ</p>

<p>委員長</p> <p>委員長</p>	<p>ととし、疑いでも出席停止措置を視野にいれると保護者に明言したところ、一気に SNS いじめがなくなったという事例がある。予防も含め、「いじめに厳しいまちあらかわ」のようなキーワードも良いだろう。</p> <p>福祉と教育に跨ることは承知であるが、数字を掲げた上で業務を減らし、負担を減らすことが求められるのではないか（事業数を4分の1程度に削減にし、削減した事業分の予算を人件費に充てる、授業数を減らす/等）。</p> <p>「教育」分野については、ここまでの議論でいただいた意見をもとに、整理する。追加の意見はワークシートにていただきたい。</p> <p>次第3「政策分野別の望ましい姿と方向性の検討」のうち(3)「若者」について、事務局から説明いただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料2「基本構想策定支援シートの『若者』」について説明する。</p> <p>1の教育分野における主な成果と実績についても詳細は割愛するが、非行少年や不良行為少年等の補導人員の減少といった成果のほか、若者相談わっかの実績等を記載している。</p> <p>2の区を取り巻く社会動向について、少子高齢化や共働き世帯の増加等により地域のつながりの希薄化や活動の担い手不足が加速化しており、地域社会の中で子どもや若者の孤立が見えにくくなる懸念が生じている状況である。また、SNSの日常化に伴い、若者が「闇バイト」等の犯罪に加担するリスクやネット上のトラブルに巻き込まれるリスクが増大するなど、若者を取り巻く安全・安心への脅威が物理空間からサイバー空間へと拡大・複雑化している。国および東京都の政策動向は記載のとおり。</p> <p>3の「区の現状」について、調査では、区に求める施設・事業として「のんびりできる場所」や「友達と集まっておしゃべりできる場所」が上位に挙げられており、家庭や学校以外の、目的がなくても安心して過ごせる「第三の居場所」へのニーズが高い状況である。また、「区にあったらよい取組」として「経済的な心配をすることなく、学習・学び直しができる環境」や「若者たちが自主的に活動できる場所や機会の充実」が上位に挙げられており、自ら活動に参加したり、体験したりする機会が求められている。地域の方々が主体となっている団体では、担い手の高齢化が進み、新たな担い手の確保が困難となっている。</p> <p>4の以上を踏まえた課題は、少子高齢化に伴い、さらに地域の担い手が減少する見込みであり、いかに若者世代を定着させ、地域づくり・地域コミュニティ等の担い手として活躍してもらうかが課題となっ</p>

	<p>ている。また、SNS等、コミュニティがリアルな空間だけに留まらないメリットがある一方、トラブルに巻き込まれるリスクが高まることから、対策の検討の必要がある。このほか、若者の就労支援や就職後の定着に向けた伴走支援、課題を抱える若者が就職後も継続して働き続ける環境づくり等、企業に対してアプローチが必要であると認識している。</p>
<p>委員長 委員</p>	<p>あらかじめ指定した委員から発言いただきたい。</p> <p>若者として、10～30代を想定している。この世代は非常に忙しい世代と認識している。悩み解決には、若者相談「わか」や、ひきこもりの方に対してはDX等を使って、比較的抵抗感の少ないチャンネルにて、課題感に寄り添った支援をしていくことが重要と考える。</p> <p>より前向きな若者領域の区の理想像について、以下3点を挙げる。</p> <p>第一に、「若者の声が生かされるまち荒川」を挙げる。荒川区では子どもの権利条例を制定し、子どもの権利を重視している。条例はあくまで理念的な枠組みに過ぎず、若者が当事者意識をもってまちづくりに関わる意義について、よく検討する必要があるだろう。あらかじめ予算を確保し、若者議会等で出た意見を実現することや、行政のバックアップのもと、若者主体でイベントやまちづくりの企画を進めてもらうことで、当事者意識や地域への愛着が一層の高まると考える。</p> <p>第二に、「さまざまな経験・体験ができるまち荒川」を挙げる。特に未成年を対象と想定している。荒川区内のさまざまな施設等にて、スポーツや文化・芸術、学習、地域ボランティア等を体験できるネットワークを構築いただきたい。</p> <p>第三に、社会人に向けた取組として、「日々の楽しみが見つけれられる荒川区」を挙げる。内容は二点目に近いが、実現にはハード面の環境整備が必要と考える。荒川区の土地面積の狭さは、実現の上ではメリットと捉えられる。大規模な公園、公共施設等の整備を一体的に捉え、その場でできる体験を整理し、バランスよく配置できると望ましい。それによって、住んでいれば、やりたいことが見つかるようなまちになり、区民の日々の生活の楽しみ・活力になるだろう。</p>
<p>委員</p>	<p>望ましい姿を三点挙げる。</p> <p>第一に、「社会的孤立を生まない」つまり「豊かなつながりを実感できる」状態を挙げる。</p> <p>第二に、挑戦したい若者に向けて「下町企業の聖地荒川」を挙げる。例えば、若者にとって「渋谷で起業する」ということは一般的な感覚であるが、荒川区でAI関連のスタートアップということは想像され</p>

委員	<p>にくい。荒川区においては、ローカルな人のつながりを重んじる古民家運営など、下町文化を生かした起業の促進と相性が良いのではないか。</p> <p>第三に、「人生の始まり期を応援するまち」を挙げる。人生 100 年時代において、25 歳頃までは起承転結の「起」にあたる。始まり期を応援するという表現がよいだろう。</p> <p>以下、望ましい姿の実現に向けた取組を 5 点挙げる。</p> <p>第一に、常設の居場所（サードプレイス、ユースセンター）が作れると望ましい。小学生の居場所と中高生の居場所、若者の居場所では性質が異なるため、ユースセンターのような場所ができると望ましい。</p> <p>第二に、若者向けのシェルター機能を持つ場所として、18～30 歳程度の方が利用できるような若者版のこども家庭総合センターがあると良いかを考える。私が運営しているなにかし堂においても「帰りたくない」「泊まりたい」と言われた際、案内できる場所がなく、対応が難しい。シェルター機能のある施設が設置されると望ましい。</p> <p>第三に、移行期支援が重要と考える。成人年齢となる 18 歳、中学校を卒業する 15 歳といった節目では、制度のはざままで支援が途切れるケースがある。各支援担当部署にて引継ぎを一生懸命されていることは承知しているが、十分な支援ができていないのが現状である。移行に伴い、担当者が変わるだけでも行きたくなくなってしまうケースもあるため、移行期に特化した部門が必要と考える。</p> <p>第四に、若者向けの商業施設の設立が必要と考える。映画館やゲームセンター等を設置し、若者が興味を持てる場が増えると望ましい。</p> <p>第五に、若者が事業を提案できるような仕組みづくりが重要と考える。市民事業提案制度を導入している自治体もあるが、若者にも応募してもらえるようになると望ましい。実際に導入されなくとも、応募することで当事者意識が持てるだろう。</p> <p>次回、15 年後の基本構想策定時には、10～20 代の若者にも審議会に参加してもらえると望ましい。若者の参加により、見える景色も変わるだろう。</p> <p>キーワードとしては「移行期支援」、「ユースセンター」、「社会的孤立」を挙げる。</p> <p>若者の声の形にできると望ましい。</p> <p>青少年地区委員会は、主に PTA 役員を務めた者がメンバーとして参加するケースが多い。従来、なり手は定年退職後の世代であるが、そ</p>
----	--

	<p>の世代の人々が子どもや若者に対してアイデアを出すことは、感性も離れており、難しいのではないかと考える。若者ならではの目線から気付けることも大いにあるだろう。青少年地区委員会や青少年委員会等さまざまな団体があり、それぞれが規約に基づき動いているため、形式ばったものになっているのではないかと思料する。オープンに子どもたちも参画できるようにできると望ましい。</p> <p>例えば、汐入地区の汐入祭りの開催にあたって、中高生ボランティアを募集し、意見を募ったことがある。大変参考になる意見が得られたが、継続的な参画にはならなかった。少額でも謝礼を用意できると参加意欲の向上につながるのではないかと。実際に地域のリソースを使うことができ、地域の人とも関われるため、子どもたち視点でも視野の広がりが期待される。中高生のうちに経験しておくことで、大学生以降にも町会活動や自治会活動に入りやすくなる可能性も考えられる。長期にわたって凝り固まってきた各種委員会の体制を一度見直すことは、行政の負担減にもつながるのではないかと。</p>
委員	<p>若者や子どもの意見を大人が受け止めなければ、反映できない。大人が社会の仕組みをつくっている現状から、子どもには意見を伝えたい、大人には子どもの声を聞きたいというような相互関係を構築する必要がある。ただ単に子ども意見表明に期待するだけでは、子どもたちとしてもどうしたら良いのかわからず、本当に意見が吸い上げてもらえるのかといった不安もあるだろう。</p>
委員長	<p>世代ごとに分けて意見を聴取するよりも、多世代会議というような形式で、世代を超えてみんなでより良い荒川区をつくる中で、若者の声も聞けると望ましい。キーワードには「多世代」を挙げる。</p> <p>要望の背景にある思いの翻訳も含め、世代を超えて意見を出し合える機会があると望ましいだろう。</p>
委員	<p>若者に限った話ではないが、図書館が多いほど、住民が健康になるという強いエビデンスがある。勉強や会話ができる図書館は、子どもたちにとっての居場所の一つになる。あえて近くに図書館付近にバス停を設置しないことで、高齢者にも歩いていただくことで健康分野のナッジにもなるだろう。</p> <p>「若者の声が形になるまち」として、福井県鯖江市では、JK課（地元の女子高生が中心となって意見を出し、まちを楽しむ企画や活動を行う課）に予算をつけ、若者の希望を形にできる仕組みがある。若者ならではの意見がせっかく出たとしても、形になる前に大人の説得が入りすぎると、立ち消えてしまうため、留意が必要である。荒川区で</p>

<p>委員長</p> <p>委員長</p>	<p>もこども議会等を実施している。あらかじめ予算をつけ、出てきた案の1つ2つは必ず反映するという前提で、発言いただけると良いだろう。</p> <p>「伝えた想いが形になる、大人の懐が深いまち」を実現することで、若者にもより荒川区を好きになってもらいたい。それによって将来の地域の担い手づくりにもつながるだろう。</p> <p>「若者」分野については、ここまでの議論でいただいた意見をもとに、整理することとしたい。</p> <p>次第3「政策分野別の望ましい姿と方向性の検討」のうち(4)「生涯学習・スポーツ」について、事務局から説明いただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料2「基本構想策定支援シートの『生涯学習・スポーツ』」について説明する。</p> <p>1の教育分野における主な成果と実績についても詳細は割愛するが、活動拠点となるスポーツセンターの改修や町屋文化センターのリニューアル、生涯学習フェスティバルの開催、電子図書館サービスの開始等の実績を記載している。</p> <p>気候変動の影響が、夏の猛暑日の増加やゲリラ豪雨の頻発といった形で現れ、屋外でのスポーツ活動に大きな制約を与えるようになった。新型コロナウイルス感染症による世界的パンデミックが発生したことで、自宅で運動できるプログラムが広まるとともに、個人の運動データを取得分析できるようなデバイスも普及している。国および東京都の政策動向は記載のとおり。</p> <p>3の「区の現状」について、「週1回以上スポーツを実施している人」の割合は、平成27年度に調査した際の38.8%と比較し令和6年度は54.4%となっており、大幅に増加している一方でスポーツを行っていない人の理由としては、「仕事・介護・育児等で忙しく時間がない」と回答した方の割合が約5割といった状況である。「学習・活動の回数が減少した、学習・活動しなかった理由」という設問に対して「きっかけがつかめなかった」と回答した方の割合が23.2%であった。読書に関する取組について、区では平成30年5月に「読書を愛するまち・あらかわ」宣言を行い、令和3年4月に「第4次荒川区子ども読書活動推進計画」を策定した。また令和5年4月に「荒川区豊かな心を育む読書のまちづくり条例」を施行した。ただ、令和6年度区政世論調査での「あなたは本・雑誌(漫画は含まない)を1か月平均何冊くらい読みますか」について「0冊」と回答した方の割合が39.7%となっている。</p>

	<p>4の以上を踏まえた課題は、年齢や障がいの有無にかかわらず、地域全体でスポーツを楽しむことができる環境づくりが課題である。また、学ぶ意欲や地域活動への参加意欲のある人が、制限を受けることなく生涯を通じて学び、地域と結びつくことができるよう、社会的包摂の観点も含めた基盤整備が必要であると認識している。読書に関しては、全世代における不読率の低減をはかるためにも、豊かところを育む読書のまちづくりに、地域と一体となって取り組む必要があると考えている</p> <p>基本構想策定支援シート「生涯学習・スポーツ」の説明は以上である。</p>
<p>委員長 委員</p>	<p>あらかじめ指定した委員から発言いただきたい。</p> <p>2040年「誰もが何歳になっても学び直せる、サポートを受けられるまち」になると望ましい。人生の始まり期の学びだけで十分過ごしていけるような時代ではなくなり、学び直しの重要性が増している。生涯学習というと、高齢者が生きがいのために学ぶというイメージを持たれがちであるが、誰もが生涯を通じて学びなおせるような環境をつくるのが重要だろう。</p> <p>就労世代の学び直しの支援は、難しい面がある。荒川区においても、イベント等の生涯学習支援を提供されているが、やはり時間に余裕のある方が参加しやすく、就労世代にはリーチしにくいことが課題となっていると考える。スポーツについても同様に、イベントを開催してはいるものの、一定層にはリーチできていないと推測される。</p> <p>解決策の一案として、イベント等の情報提供が有効か。学び直したい人が足を運ぶことで情報が得られる場所があると望ましい。</p> <p>また、「読書を愛するまち・あらかわ」宣言は大事にできると良いだろう。ゆいの森も、積極的に活用できると望ましい。</p> <p>また、図書館は読書に限らず、多様な可能性のある場所であるため、有効な活用方法について検討いただきたい。生涯教育・生涯学習分野では、図書館の役割を、すべての人の知る権利を保証するところと捉えている。どんな人でも、図書館に行けば無料でほしい情報にアクセスできる。海外の図書館は日本の図書館と異なる点が多く、参考となるような特徴を持っている。北欧の図書館は、飲食やおしゃべりが自由となっている。子どもの居場所になっており、条件の悪い家庭の子どもたちが図書館で宿題をしていることもある。経験格差の是正を目的として、テレビゲームの貸し出し等を行っている図書館もある。アメリカの図書館では、学習支援（セミナー／等）や子どもの宿題のサ</p>

委員	<p>ポート、ビジネス支援（マッチングノ等）など、多様な取組が行われている。近年、日本においても、ビジネス支援や子どもの居場所づくりに近い取組を行う図書館も増え始めている。スペースの余裕次第ではあるが、ゆいの森にも多様な活用可能性があるだろう。</p> <p>海外の図書館における多様な取組の背景の一つとして、公民館がないことが挙げられ、図書館が公民館の機能と日本における一般的な図書館の機能を一体的に担っている。荒川区においても、さらに図書館の可能性を引き出せると望ましい。</p> <p>生涯学習とスポーツがセットになっていることには意味があると考えている。両者に通ずる目指す姿として、「人とつながることで、自然と心や体が整うまち」という将来像が良いかを考える。</p> <p>スポーツについては多様な施設や団体があり、生涯学習についても行政がさまざまな取組を行っているにも関わらず、それらを利用する人は少ない。スポーツをする人は増加傾向ではあるものの、やはり時間がなくできないという人も多いのが現状である。</p> <p>意志を持ってスポーツや学習を始めようというよりは、人と関わる中で、巻き込まれていき、自然としているような環境を整えることが有効かを考える。例えば、汐入地区では、地域のイベントにトラックを設置することで、食べに来たついでになんとか体を動かすような工夫があった。</p> <p>子どもの運動に関わる中で、大人も一緒に汗をかくような設計とすることも一案だろう。私が代表を務める少年野球では、子ども向けにフィジカル専門のコーチを招きコーチングいただく際、大人も巻き込んで動いてもらっている。「結果的に動いていた」というような仕掛けが増やせると望ましい。</p> <p>生涯学習においては、今後は心を育てる視点が重要になると考える。2040年には、AIの普及がさらに進み、知識や正解、欲しい情報はAIが示すようになると予想される。さまざまな課題をAIが解決するようになり、現在地域の生涯学習で扱う内容についても、わざわざ人が足を運んで学ばずとも、AIで代替できてしまうようになる可能性も考えられる。そのような時代になった場合、人間に求められるのは「こころ」だろう。その際、地域で気軽に顔が見ながら相談できる部課を設け、話せる場を提供できると望ましい。区民の悩みの解決だけでなく、専門家も区民と話すことで学びがあるだろう。人と人が話し合う中で刺激を与え合い、相乗効果を生むことで、荒川区がより良いまちになると考える。</p>
----	--

	<p>具体的な取組として、公園や商業施設は制限が多く、野球はほとんどの場所で禁止されている。全部は許可できなくとも、特定の曜日だけ許可する等に、制限を緩和することで可能性も広がるだろう。そこに、地域のサポーターとして経験者に参加を呼びかければ、喜んで関わっていただけるのではないか。</p> <p>学びについては、ささいな相談事が生まれたときに、尋ねられる人がいる環境を整えられると良いだろう。常勤の行政職員に限らず、精通した分野がある人を登録しておき、相談内容に応じてマッチングして、相談後には相互に評価しあうような仕組みをつくることも一案か。</p> <p>スポーツと学びをセットで考え、グラウンドと図書館を一体化することも一案と考える。図書館で学んでいて、体を動かすことが良いとわかればすぐに体を動かすことができ、スポーツをしていて理論を学びたいと思えばすぐに図書館で勉強できるというように、掛け算で心身を育むことができるような環境になると望ましい。スポーツや学びはあくまで手段で、心と体が整えることをゴールとすると、リソースは一挙に集約した方が、区民にとってもわかりやすいかと思料する。</p> <p>荒川区においては生涯学習支援等の多様な取組が行われているが、基本的にはスポーツセンターや生涯学習センターのような建物内で実施されているため、何をしているのかが伝わりにくいという面があるのではないか。施設内の活動も充実させつつ、屋外やショッピングモールなど、生活導線上でたまたま目に入るような場所での活動も増やせると良いだろう。そうすることで、意識的に「学ぼう」、「運動しよう」という気持ちのある人に留まらず、「なんとなく目に入ったから、止まって見てみた」という人も巻き込める可能性があると考え。屋外や街中での活動は、まちのにぎわい創出にもつながる。スポーツや生涯学習がまちの各所で目にできるような環境になると望ましい。</p> <p>荒川区では、スポーツや生涯学習の取組がさかに行われている。一方、区民がそれらを全て把握できているのかということには、懸念がある。アプリやAI等が、その中から個人へのおすすめを表示してくれるような仕組みができると望ましい。</p> <p>高齢者の研究をする中で、強制的にであっても運動をさせることで健康になることがわかった。歩くと健康になるということには、大変多くのエビデンスがある。民間企業も含め、社会全体で日本人の健康に向け、歩かせる仕組みを提供している（歩数に応じてマイルがもらえる／等）。荒川区においても、そのような取組ができると望ましい。</p>
委員	
委員長	

委員	<p>不読率について懸念している。令和6年度の区政世論調査では、「あなたは、本・雑誌（漫画は含まない）を1か月平均何冊くらい読みますか。」という設問について、0冊（不読率）という回答が約4割となっている。高齢者において、視力の問題で本が読みづらいという人や、発達特性上、目で字を追って理解するのに時間を要するため、本を読みづらいという人が存在するため、図書館でオーディオブックの導入を進め、視覚以外でも本を楽しめる環境をつくれると良いだろう。</p> <p>栄養士の方から、絵本の中で登場した食べ物を給食に出す「読書給食」という取組があることを聞いた。絵本の中の食べ物が出るため、絵本の世界を知りたくなった子どもが本を借りに行くようになったとのことであった。この事例のように、味覚と合わせる等の工夫も良いだろう。荒川区では、親子で共に読書を楽しむ「家読（うちどく）」という取組が行われており、そこで味覚や聴覚を伴うとさらに取組の可能性が広がると考える。</p>
委員長	<p>幼稚園や保育園にて、ぐりとぐらに出てきた食べ物を出すと、子どもたちの反応がとても良い。</p> <p>食においても格差があるため、図書館の読書会に来た子どもにおやつを提供することも一案か。現実には朝から学校開け、朝食を提供せざるを得ない地域もある。荒川区の実態は把握しかねるが、既存の施設等を生かして柔軟な行政システムができると望ましい。施設によって用途を完全に分けるのではなく、生涯学習、スポーツ、教育、福祉等関連分野で連携し、多様な場所で多様な体験ができる状態になると良いだろう。「冗長性」、「レジリエンス」がキーワードになるかと考える。</p>
委員 区	<p>荒川区は、文化面では、将棋に力を入れている印象がある。</p> <p>地域団体が将棋・囲碁等の活動を積極的に推進している。子どもたちの育成においても、棋士の先生方に教えていただく機会を設けている。</p>
委員	<p>一方、荒川区で特に注力されているスポーツについては特段思い浮かばなかった。歩くことが健康に良いという委員長の話も踏まえ、老若男女楽しめる「プロギング」の推進を提案したい。プロギングとは、ジョギングしながらゴミ拾いする活動で、区内でもしばしばイベントが開催されている。健康にも良く、地域貢献にもなる一石二鳥の取組で、その人の能力に沿って自然にできる活動であるため、荒川区においてもこの取組を促進できると良いのではないかと。</p> <p>また、街中にゴミ箱が少ないという印象を持っている。空き缶やペ</p>

委員長	<p>ットボトルの数は自転車の通行時、大変危険であるため取り除きたいが、ゴミ箱がない。自動販売機に回収ボックス併設されていない箇所も多く、整備すべきと考える。</p> <p>ゴミ箱については多くの自治体で問題になっている。住民が利用するためのゴミ捨て場に、ルールを守らず捨てる住民以外の人も多く、ゴミ置き場をスマホで認証して開くようにする仕組みについても議論されている。</p>
委員長	<p>「生涯学習・スポーツ」分野については、ここまでの議論でいただいた意見をもとに、整理することとしたい。</p>
委員長	<p>以上で政策分野別の検討を終了する。今後のスケジュールについては、事務局より資料4をご説明いただきたい</p>
区	<p>資料4「審議会開催スケジュール」について説明する。</p> <p>小委員会での審議は本日で終結し、次回は審議会を開催する。5月25日(月)の第3回審議会では、小委員会での審議結果の報告と基本構想の草案について検討いただく予定である。</p> <p>6月29日(月)の第4回審議会では、第3回審議会での議論を踏まえ、基本構想の答申案を検討し、決定する。</p> <p>最終回の7月29日(月)の第5回基本構想審議会では、審議会会長より区長に対して答申をいただく予定である。</p> <p>ご説明は以上である。</p>
委員長	<p>資料4について質問・意見をいただきたい。</p>
委員長	<p>ご質問がないため、資料4の通りに進める。最後に事務局より事務連絡をお伝えいただきたい。</p>
事務局	<p>本日検討いただいた、「子育て」「教育」「若者」「生涯学習・スポーツ」について、追加で意見がある場合は、資料3「追加意見シート」を事務局へ提出いただきたい。追加意見シートの様式は、会議終了後、事務局よりメールでお送りする。</p>
委員長	<p>[閉会]</p>